



# Sun Fire™ エントリーレベル ミッドレンジシステム ファームウェア 5.18.0 ご使用にあたって

---

Sun Microsystems, Inc.  
[www.sun.com](http://www.sun.com)

Part No. 819-0741-10  
2004 年 10 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2004 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, docs.sun.com, Java, OpenBoot, Sun Fire, Sun StorEdge は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植の可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun Fire Entry-Level Midrange Systems Firmware 5.18.0 Release Notes  
Part No: 817-7810-10  
Revision A



# 目次

---

リリース 5.18.0 の新機能	1
Secure Shell (SSH) プロトコル	1
SSH に関する問題	2
Capacity On Demand	3
リリース 5.18.0 で変更されたコマンド	3
DHCP ネットワーク起動の変更	4
Sun Fire エントリーレベルミッドレンジシステム (E2900/V1280/Netra 1280) のマニュアル	6
一般的な情報	6
エントリーレベルミッドレンジシステムの要件	6
ファームウェアのアップグレードおよびダウングレード	7
Sun Fire エントリーレベルミッドレンジシステムの既知の制限事項	7
ファームウェアのアップグレードによって接続形式が変更される (バグ ID 5060748)	8
Serengeti SC で SNTP を有効にすると、ドメインロックが中断する (バグ ID 4966931)	8
Sun Management Center テーブルの FRU ID データが更新されない (バグ ID 4834060)	8
prtdiag および Solaris LOM が、エントリの不正または不足を報告する (バグ ID 4851173)	9
poweroff コマンドの使用後、ファームウェアによって RP*/SB*/IB* ボードが不明または故障と報告される (バグ ID 5089726)	9

prtfriu コマンドによって I/O エラーが返される (バグ ID 5000932) 10

setkeyswitch または testboard 処理のあとで、ボード状態が不正になる  
(バグ ID 5066326) 10

sgcn\_output\_line(): OBP console blocked; message data lost  
(バグ ID 4939206) 11

disablecomponent を実行しても I/O カードをブラックリストに登録でき  
ない (バグ ID 5074564) 11

Sun Fire ミッドレンジサーバープラットフォームで wanboot を実行すると  
「panic - boot: create\_ramdisk: fatal error」と表示される  
(バグ ID 5076076) 11

ERROR: DomainBufferReader thread error java.lang.  
NullPointerException (バグ ID 5088923) 12

電源障害によって SEEPROM の内容が破壊される場合がある (バグ ID  
5093450) 12

# Sun Fire エントリレベルミッドレンジシステムファームウェア 5.18.0 のご使用にあたって

---

このマニュアルでは、Sun Fire E2900、Sun Fire V1280、および Netra 1280 システムのファームウェアリリース 5.18.0 に関する最新情報と、新しい機能および変更された機能について説明します。

このマニュアルの内容は、次のとおりです。

- リリース 5.18.0 の新機能
  - 一般的な情報
  - Sun Fire エントリレベルミッドレンジシステムの既知の制限事項
- 

## リリース 5.18.0 の新機能

この節では、Sun Fire エントリレベルミッドレンジシステムでのリリース 5.18.0 の新機能の概要について説明します。

### Secure Shell (SSH) プロトコル

Sun Fire エントリレベルミッドレンジシステムでは、Telnet プロトコルの代わりに、システムコントローラへの安全な遠隔アクセスを提供する Secure Shell プロトコルを使用できるようになりました。SSH は、暗号を使用してホストとクライアント間のデータフローを保護するとともに、認証機構を使用してホストおよびクライアントの両方を識別します。

システムコントローラ (SC) は、SSHv2 サーバー機能を提供します。SSH の詳細およびセキュリティー保護された接続の設定方法については、『Sun Fire エントリレベルミッドレンジシステム管理マニュアル』の第 8 章「セキュリティーに関するガイドライン」を参照してください。

## SSH に関する問題

- SSH 接続は、バージョン 1 のシステムコントローラ (SC V1) が装備された Sun Fire V1280 サーバー、または Netra 1280 サーバーではサポートされません。SSH は、バージョン 2 のシステムコントローラ (SC V2) が装備されたシステムでのみサポートされます。SC V1 が装備されたシステムでは、`setupnetwork` コマンドで `ssh` 接続形式を指定することはできません。設定できる接続形式は、`none` または `telnet` のみです。(バグ ID 5091556)

次の SSH サポートコマンドは、SC V1 が装備されたエントリレベルミッドレンジシステムでは使用できません。

- `ssh-keygen`
- `restartssh`
- デフォルトでは、SSH サーバーは RSA ホスト鍵を作成して使用します。

DSA ホスト鍵を作成せずにデフォルトの使用を選択すると、SSH サーバーが有効な場合は、次のメッセージが表示されます。

```
[0XXXXXXXX] Could not load host key: /DsaKey
```

このメッセージは無視できます。

- Sun Fire ミッドレンジシステムの SSH サーバーは、次の機能をサポートしていません。
  - 遠隔からのコマンド行の実行
  - `scp` (Secure Copy Program) コマンド
  - `sftp` (Secure File Transfer Program) コマンド
  - ポート転送
  - 鍵ベースのユーザー認証
  - SSHv1 クライアント

これらの機能のいずれかを使用すると、エラーメッセージが生成されます。たとえば、次のコマンドを実行したとします。

```
# ssh SCHOSt showboards
```

その結果、次のメッセージが生成されます。

- SSH クライアント上:

```
Connection to SCHOSt closed by remote host.
```

- SC コンソール上:

```
[0x89d1e0] sshdSessionServerCreate: no server registered
          for showboards
[0x89d1e0] sshd: Failed to create sshdSession
```

## Capacity On Demand

COD (Capacity On Demand) オプションでは、必要になった時点で代金を支払って使用できる、予備の処理リソースが提供されます。COD オプションとして、ライセンスのない CPU/メモリーボードを入手して取り付けることができます。このボードは、COD CPU/メモリーボードとして識別され、4 つの CPU が搭載されています。ただし、これらの COD CPU/メモリーボードに対する COD 使用権 (RTU) ライセンスを購入しないかぎり、COD CPU/メモリーボードの CPU を使用することはできません。COD RTU ライセンスを注文すると、ライセンスキーが付与されます。これによって、そのライセンスキーに応じた数の COD プロセッサが使用可能になります。

Sun Fire エントリーレベルミッドレンジシステムでは、そのシステムで許可されている最大容量まで、有効な CPU/メモリーボードと COD CPU/メモリーボードを任意に組み合わせることができます。システムでは、1 つ以上の CPU が動作している必要があります。

COD を使用する場合は、『Sun Fire エントリーレベルミッドレンジシステム管理マニュアル』(Part No. 819-0752-10) の「Capacity On Demand」の章を参照してください。COD CPU/メモリーボードおよび適切な数の COD RTU ライセンスについては、ご購入先に問い合わせてください。COD CPU/メモリーボードの取り付けが完了したら、『Sun Fire エントリーレベルミッドレンジシステム管理マニュアル』の「Capacity On Demand」の章を参照してください。また、COD RTU ライセンスの割り当て、COD CPU の有効化、および使用中の COD CPU の監視に関するシステムコントローラコマンドの使用については、『Sun Fire エントリーレベルミッドレンジシステムコントローラコマンドリファレンスマニュアル』(819-0746-10) を参照してください。

## リリース 5.18.0 で変更されたコマンド

リリース 5.18.0 では、次の SC コマンドが変更されています。

SSH コマンドの追加:

- `ssh-keygen` - SSH ホスト鍵の生成と、SC のホスト鍵の指紋の表示を行います。
- `restartssh` - SSH サーバーを再起動して、`ssh-keygen` によって作成された新しいホスト鍵を有効にします。

COD コマンドの追加：

- `addcodlicense` - COD (Capacity on Demand) ライセンスデータベースに、COD 使用権 (RTU) ライセンスキーを追加します。
- `deletecodlicense` - COD ライセンスデータベースから、COD RTU ライセンスキーを削除します。
- `showcodlicense` - COD ライセンスデータベースに現在格納されている COD RTU ライセンスを表示します。
- `showcodusage` - COD リソースの現在の使用状況に関する統計情報を表示します。

『Sun Fire エントリレベルミッドレンジシステムコントローラコマンドリファレンスマニュアル』では、次のコマンドの説明が変更されています。

- `setupnetwork` - ネットワークの有効なパラメタとして、新たに SSH 値が追加されました。
- `shownetwork` - ネットワークの有効なパラメタとして、新たに SSH 値が追加されました。
- `help` - 新しいコマンドをサポートします。また、プラットフォームコマンドのメッセージが更新されました。
- `setescape` - SSH エスケープ文字を設定できるようになりました。
- `showescape` - SSH エスケープ文字を表示できるようになりました。
- `setupsc` - COD パラメタを設定できるようになりました。
  - 使用可能にするインスタントアクセス CPU (headroom) の数
  - 予約する COD RTU ライセンスの数
- `showsc` - `setupsc` コマンドで設定されたパラメタの値を表示します。次のパラメタが新しく追加または変更されました。
  - 使用可能なインスタントアクセス CPU (headroom)
  - ドメインに予約された COD RTU ライセンスの数
- これらのコマンドの詳細は、『Sun Fire エントリレベルミッドレンジシステムコントローラコマンドリファレンスマニュアル』の説明を参照してください。

## DHCP ネットワーク起動の変更

5.18.0 ファームウェアでは、DHCP プロトコルを使用してネットワークから起動した場合の OpenBoot PROM の動作が変更されています。



ネットワーク起動の処理中、クライアントは TFTP を使用して、DHCP サーバーによって指定された TFTP 起動サーバーから `inetboot` などの初期起動バイナリファイルダウンロードします。ダウンロードするファイル名が DHCP サーバーによってクライアントに提供されない場合、OpenBoot PROM はデフォルトのファイル名を使用して TFTP 要求を行います。以前のファームウェアリリースでは、デフォルトの起動ファイル名に、16 進数表記の 8 文字で表現されるクライアントの IP アドレスが使用されました。たとえば、IP アドレスが `192.168.100.1` であるクライアントの場合は、`C0A86401` をいう名前のファイルが要求されます。この動作は、DHCP を使用しないネットワーク起動では正しく行われますが、DHCP を使用したネットワーク起動には不適切です。

今回のリリースから、OpenBoot PROM が使用するデフォルトの起動ファイル名は、クライアントのプラットフォームタイプにあわせて作成されます。DHCP サーバーによって別の起動ファイル名が指定されないかぎり、ミッドレンジプラットフォームでは `SUNW.Sun-Fire` という名前のファイルを、エントリーレベルミッドレンジプラットフォームでは `SUNW.Netra-T12` という名前のファイルを要求します。この動作は、Solaris ソフトウェアに付属するネットワーク起動サーバーの設定ツールと一致しています。

この変更によって、使用するネットワーク起動構成によっては、新しいファームウェアをインストールしたあとにネットワーク起動エラーが発生する場合があります。特に、要求した起動ファイルが TFTP 起動サーバー上に存在しなかった場合、OpenBoot PROM によって次のメッセージが表示され、OS の起動が失敗します。

```
ERROR: get_tftp_file: TFTP error 2: Access violation
```

**回避策**：この状況は、さまざまな方法で修正できます。次に例を示します (これ以外にもあります)。

- TFTP 起動サーバーの起動ファイルの名前を変更する (たとえば、`C0A86401` から `SUNW.Sun-Fire` に変更)
- TFTP 起動サーバー上に、実際のファイルへのシンボリックリンクを作成する (たとえば、`# ln -s C0A86401 SUNW.Netra-T12`)
- DHCP サーバーの DHCP マクロを変更して、クライアントに明確な起動ファイル名を提供する

DHCP ネットワーク起動処理は、DHCP サーバーと TFTP 起動サーバーが異なるマシンである構成をサポートしています。DHCP サーバーおよびその他のネットワークコンポーネントが正しく構成されていれば、DHCP サーバーと TFTP サーバーは異なる IP サブネット上に存在することができます。ただし、以前のリリースの OpenBoot PROM ファームウェアでは、DHCP サーバーが TFTP サーバーと異なるマシンであることを示す場合でも、DHCP サーバーと TFTP サーバーは同じマシンであるとみなされます。

今回のリリースから、OpenBoot PROM は、DHCP サーバーと TFTP サーバーが異なるサブネット上に存在する場合など、これらのサーバーが同じマシンではない構成を正しく処理します。サブネットを横断する TFTP 構成の場合は、Router と Subnet の適切な値がクライアントに提供されるように DHCP サーバーを構成する必要があります。

この変更によって、使用する DHCP サーバーが不適切に構成されている (クライアントに誤った Router または Subnet の値が提供される) と、新しいファームウェアをインストールしたあとにネットワーク起動エラーが発生する場合があります。この場合、クライアントの OpenBoot PROM ファームウェアによって、次のいずれかまたは両方のメッセージが表示されます。

```
ERROR: get_arp_info: Timeout waiting for ARP packet
```

```
ERROR: tftp_get_reply: Timeout waiting for TFTP packet
```

**回避策:** このエラーメッセージを回避するには、DHCP サーバーによってクライアントに送信される Router と Subnet の値が適切であることを確認してください。

## Sun Fire エントリーレベルミッドレンジシステム (E2900/V1280/Netra 1280) のマニュアル

- 『Sun Fire エントリーレベルミッドレンジシステム管理マニュアル』 (Part No. 819-0752-10)
- 『Sun Fire エントリーレベルミッドレンジシステムコントローラコマンドリファレンスマニュアル』 (Part No. 819-0746-10)
- 『Sun Fire エントリーレベルミッドレンジシステムファームウェア 5.18.0 ご使用にあたって』 (Part No. 819-0741-10)(このマニュアル)

---

## 一般的な情報

### エントリーレベルミッドレンジシステムの要件

Sun Fire E2900 システムには、5.17.0 以上のファームウェアと、Solaris 8 2/04 以上または Solaris 9 4/04 以上のオペレーティング環境が必要です。

表 1 エントリーレベルミッドレンジシステムでサポートされるファームウェアおよびソフトウェアの最小バージョン

Sun Fire E2900 システム	Sun Fire V1280/Netra 1280 システム	Solaris 8 OS	Solaris 9 OS
ファームウェア 5.17.0	ファームウェア 5.17.0	Solaris 8 2/04	Solaris 9 4/04
	ファームウェア 5.13.001x	Solaris 8 2/02	Solaris 9 4/03

---

**注** – Sun Fire E2900 システムおよび UltraSPARC IV ボードを取り付けたシステムでは、リリース 5.17.0 以上のファームウェアを実行する必要があります。これより前のリリースのファームウェアは、UltraSPARC IV CPU/メモリーボードをサポートしていません。SC V2 が構成されているエントリレベルミッドレンジシステムで、UltraSPARC IV CPU/メモリーボードを取り付けていない場合は、リリース 5.17.0 から 5.13.001x のファームウェアにダウングレードできます。ただし、以前のリリースのファームウェアでは、5.17.0 または 5.18.0 で導入された機能がサポートされないことに注意してください。

---

## ファームウェアのアップグレードおよびダウングレード

ファームウェアの更新手順 (アップグレードおよびダウングレード) は、『Sun Fire エントリレベルミッドレンジシステム管理マニュアル』に記述されています。

Sun Fire E2900 システムおよび UltraSPARC IV CPU/メモリーボードを取り付けた Sun Fire V1280 システムでは、リリース 5.17.0 以上のファームウェアを実行する必要があります。これより前のリリースのファームウェアは、UltraSPARC IV CPU/メモリーボードをサポートしていません。

SC V2 が構成されているエントリレベルミッドレンジシステムは、5.18.0 から以前のリリースのファームウェアにダウングレードできます。ただし、以前のリリースのファームウェアでは、5.18.0 で行われたバグの修正が適用されないことに注意してください。

---

## Sun Fire エントリレベルミッドレンジシステムの既知の制限事項

この節では、重大な影響を及ぼす可能性のあるバグのみを示します。README ファイルには、サンの内部だけで検出されたバグを含む、すべてのバグの一覧が記載されています。

## ファームウェアのアップグレードによって接続形式が変更される (バグ ID 5060748)

エントリレベルミッドレンジシステムのファームウェアを 5.17.x または 5.18.x から 5.13.x に更新したあとで接続形式を変更した場合、そのファームウェアを 5.13.x から 5.17.x または 5.18.x にふたたび更新すると、5.13.x で新たに選択されていた接続形式は保証されません。5.13.x への更新後に、5.13.x から 5.17.x または 5.18.x にファームウェアを更新すると、5.13.x に変更する前に 5.17.x または 5.18.x で使用していた元の接続形式が復元されます。

**回避策：**システムの安全性を確保するには、`setupnetwork` コマンドを使用して、接続形式を明示的に設定します。

## Serengeti SC で SNTP を有効にすると、ドメインクロックが中断する (バグ ID 4966931)

これは、次の状況で発生します。

- システムコントローラで 5.18.0 ファームウェアが動作している
- システムに SNTP サーバーが構成されている

RTOS 40 がインストールされた状態で SC ファームウェアを 5.18.0 より前のバージョンに更新すると、`scapp` の NTP サーバーの構成が変更される可能性があります。その結果、RTOS 40 と `scapp` が異なる NTP サーバーを待機します。

**回避策：**`scapp` をダウングレードする場合は、NTP サーバーの構成を解除し、ダウングレードしたあとでふたたび構成します。こうすることで、NTP 操作を明示的に使用可能にするまで、使用不可にしておくことができます。

## Sun Management Center テーブルの FRU ID データが更新されない (バグ ID 4834060)

エントリレベルミッドレンジサーバーのコンポーネントが欠落している、または使用不可である場合、Sun Management Center ソフトウェアの FRU ID Info テーブルには、SSC および BP エントリ以外のハードウェアの FRU (現場交換可能ユニット) が表示されません。テーブル内の残りのエントリには、「Reading ...」というメッセージが表示されます。

システムテーブルの Module Status エントリには FRU ID エラーが報告され、危険アラームインジケータを表示します。ソフトウェアが Module Status の取得を試みている間、アラームメッセージには「Data acquisition error」と表示されます。

**回避策：** /usr/sbin/prtfru を使用して、FRU のツリー階層とデータを端末のシェルに出力します。

## prtdiag および Solaris LOM が、エントリの不正または不足を報告する (バグ ID 4851173)

lom> poweroff コマンドによってシステムがスタンバイモードになっているときに新しいシステムボードを追加した場合、lom> poweron を使用してシステムを起動すると、prtdiag コマンドの出力に、新しいボードが不正または不足エントリとして表示されます。システムの電源を完全に切ってから新しいボードを追加するか、動作中のシステムに新しいボードを動的に再構成した場合、この問題は発生しません。

この問題は、エントリレベルミッドレンジシステムで 5.13.x ファームウェアを使用している場合にのみ発生します。

**回避策：**

prtdiag および lom コマンドによる報告が正しく行われるようにするには、DR 操作の完了後にシステムコントローラをリセットします。

1. 新しいボードを動的に再構成します。
  - a. # cfgadm -c disconnect N0.SBx
  - b. # cfgadm -c configure N0.SBx
2. SC をリセットします。
  - a. lom> resetsc

## poweroff コマンドの使用後、ファームウェアによって RP\*/SB\*/IB\* ボードが不明または故障と報告される (バグ ID 5089726)

まれに、showboards コマンドによって、システムボード (SB0、SB2 など) の状態が、PWR: Unk (不明な電源状態) および Status: failed (ボードがすべての診断に失敗) と表示されます。多くの場合、この状況は報告エラーで、必ずしもボードに問題があるわけではありません。

この状況は、poweroff コマンドの使用後に発生する可能性があります。

**回避策**：resetsc コマンドを使用して、システムコントローラをリセットします。その後、showboards コマンドでは、システムボードが正しい状態で表示されます。このリセットは、ドメインの状態には影響しません。ただし、SC をリセットしても問題が修正されない場合は、システム全体の電源を切ってから再起動します (これによってドメインもリセットされます)。

## prtfru コマンドによって I/O エラーが返される (バグ ID 5000932)

prtfru コマンドを使用すると、システム内の多くの FRU (現場交換可能ユニット) に関するデータの代わりに、I/O エラーメッセージが返される場合があります。Solaris OS がシステムコントローラでの処理 (ボードテスト、診断コマンドなど) の完了を待機していると、その処理が完了するまで、キャッシュに保存されていない FRU 情報は利用できません。数秒または数分後に Solaris OS がタイムアウトして、その結果、I/O エラーメッセージが表示されます。この問題は、prtfru コマンドを妨害する処理が完了すると、自然に解決する場合があります。ただし、処理によっては、数時間かかる場合があります。

### **回避策**：

エントリレベルミッドレンジシステムで、prtfru コマンドによって I/O エラーが生成された場合は、1 時間待ってからコマンドを再実行します。prtfru コマンドが引き続き失敗する場合は、永続的な状況と考えられ、これを修正するにはサーバーを再起動する必要があります。システムのコンポーネントの健全性に関する情報は、showboards コマンドを使用するなど、別の方法で確認できます。

## setkeyswitch または testboard 処理のあとで、ボード状態が不正になる (バグ ID 5066326)

ドメインでパニックが発生したあと、またはドメインでエラーが検出された場合、その後に行われた setkeyswitch または testboard 処理の出力には、ボードプロセッサの状態が Unknown であると表示されます。

**回避策**：システムコントローラを再起動します。

`sgcn_output_line(): OBP console  
blocked; message data lost (バグ ID  
4939206)`

Solaris ソフトウェアまたは OpenBoot PROM からのデータの提供が、システムコントローラによるコンソールへのデータの書き込みよりも速い場合は、表示されないコンソールメッセージが存在することを示すメッセージが表示されます。

回避策：ありません。

`disablecomponent` を実行しても I/O カードを  
ブラックリストに登録できない (バグ ID 5074564)

`disablecomponent` または `setls` コマンドを実行して I/O カードをブラックリストに登録しても、カードは OpenBoot PROM (OBP) レベルでは使用不可になりません。

回避策：I/O カードを使用不可にしたあと、`setkeyswitch off` を実行してから `setkeyswitch on` 処理を実行します。

Sun Fire ミッドレンジサーバープラットフォーム  
で `wanboot` を実行すると「`panic - boot:  
create_ramdisk: fatal error`」と表示され  
る (バグ ID 5076076)

Sun Fire ミッドレンジシステム (E6900、E4900、E2900、6800、4810、4800、3800、および V1280) の起動に `wanboot` サーバーを使用すると、`wanboot` サーバーは `ramdisk` を作成できず、Sun Fire ミッドレンジシステムを起動できません。

回避策：ありません。

## ERROR: DomainBufferReader thread error java.lang. NullPointerException (バグ ID 5088923)

状況によっては、ドメインコンソールシェルから reset または shutdown コマンドを実行したときに、このエラーメッセージが表示される場合があります。このエラーは、ドメインの可用性には影響しません。ただし、reset または shutdown コマンドが完了するまでに、通常よりも 60 秒多くかかる場合があります。

回避策：ありません。

## 電源障害によって SEEPROM の内容が破壊される 場合がある (バグ ID 5093450)

セグメントの追加処理中に電源障害および ScApp の再起動が発生すると、再起動時に 1 つ以上の SEEPROM セグメントが破壊される場合があります。ただし、このようなエラーメッセージが表示された場合でも、ドメインの可用性には影響ありません。

回避策：ありません。